

■ 駒沢生活貯水池（駒沢ダム）の概要

【目的】

- ①洪水調節(治水安全度 1/30)
- ②流水の正常な機能の維持
- ③水道用水の供給(辰野町:500m³/日)

【施設諸元】

- ・総貯水容量 : 540,000m³
- ・治水容量 : 150,000m³
- ・利水容量 : 340,000m³
 - 水道用水 : 60,000m³
 - 流水の正常な機能の維持 : 280,000m³
- ・堆砂容量 : 50,000m³
- ・湛水面積 : 0.05km²
- ・重力式コンクリートダム
- ・堤高:47.5m 堤頂長:141.0m 堤体積:58,200m³

【事業費】

- ・総事業費 : 60 億円
- ・執行済額 : 3.6 億円(進捗率 6.0%)
- ・工期 : 平成 31 年度

【事業経緯】

- ・予備調査 平成 4 年度
- ・建設事業 平成 5 年度 建設採択
- 平成 13 年 2 月 「脱ダム」宣言
- 平成 15 年 6 月 長野県治水・利水ダム等検討委員会 ※1 「中止」を答申
- 平成 15 年度 公共事業再評価 「ダムによらない治水・利水対策を策定し、現行事業を中止」
- 平成 15 年度 駒沢川流域協議会 ダムによらない治水・利水対策の検討を開始
- 平成 20 年度 公共事業再評価 「一時休止」
- 平成 22 年度 駒沢川流域協議会 ※2 ダムによらない治水・利水対策を提言
- 平成 23 年 10 月 公共事業再評価 「事業中止」

※1 平成 13 年 3 月 26 日に公布された「長野県治水・利水ダム等検討委員会条例」に基づいて設置
 ※2 長野県が平成 16 年 3 月 14 日に設置し計7回開催



■ 長野県の対応方針

本事業は、駒沢川の治水対策、流水の正常な機能の維持、辰野町への水道用水の供給を目的とする生活貯水池事業（ダム建設事業）として進めてきたが、治水は河川改修、利水は地下水と、それぞれの対策案が経済的または可能であると判断したため、生活貯水池事業は中止とする。なお、治水対策については、現在策定中の天竜川水系伊那圏域河川整備計画に河川改修を位置付けることとする。

■ 目的別の状況

参考資料 2

①駒沢川の治水計画

〔現行計画〕
 基準点(小野川合流点)において、駒沢生活貯水池により 16 m³/s を調節し、河道への配分流量を 36m³/s とする計画(治水安全度 1/30)

↓

ダム案と他の治水対策案との経済比較の結果、河川改修による治水対策案が経済的

②駒沢川の流水の正常な機能の維持

〔現行計画〕
 既得用水の補給を行うなど流水の正常な機能の維持を図るため、駒沢生活貯水池で不特定容量を確保

↓

駒沢川では、近年
 ・農業用水必要量は減少傾向
 ・ダム計画時より、河川流況が改善している

↓

駒沢生活貯水池によって必要水量を確保する緊急性は低いと判断

③駒沢川の利水計画

〔現行計画〕
 駒沢生活貯水池により辰野町に 500m³/日の水道用水を供給

↓

辰野町は、ダムによらない利水対策案(地下水源の開発)により必要水量を確保する意向

↓

駒沢生活貯水池による水道用水の供給は不要